

DOCUMENT

series 174

Eye

混合交通を観察する

自転車は子どもから高齢者まで手軽に利用できる便利な乗り物だ。だが、自転車は道路や歩道上を走行するため、クルマや歩行者との出会い頭の衝突による転倒で、死亡事故や重傷事故になりかねない危険な乗り物でもある。

近年、自転車乗車中の交通事故は増加傾向にあり、平成14年の場合、自転車乗

自転車に乗る小学生は一時停止を行っているか

WHY



車中の死者数は全国で18万5733人におよんでいる。特に自転車乗車中の子どもと高齢者の事故が増加中であり、事故件数のうち26.7%は15歳以下だ。また、自転車事故の多くは交差点内で発生して



観察場所 / 神奈川県川崎市高津区溝の口1-8付近
観察日 / 7月14日(水曜日)
天候 / 晴れ
観察時間 / 16:20 ~ 18:20(2時間)
観察者 / 3名

親の後ろを走る子どもは、ほとんどが一時停止や左右確認を行なわなかった

信号機のない交差点で自転車に乗る小学生の安全確認状況を観察する

2時間に観察した自転車に乗る小学生75名中、信号機のない交差点で一時停止したのは9名



母親が子どもに一時停止と左右確認を教えている場面も観察された

いるという(平成14年版ビジュアルデータ 図で見る交通事故統計 より)

信号機のない交差点で、自転車乗車中の小学生の一時停止について観察してみた。

WATCHING

親の後ろを走る子どもは自分で安全確認をしない

観察場所は神奈川県川崎市高津区溝の口駅北側にある商店街周辺。大型スーパーや飲食店、ゲームセンターなどがあり、歩行者だけでなく自転車の通行も多い。観察地点の交差点は、進入する際に一時停止が必要で、「一時停止」の標識および「止まれ」の道路標識がある。観察時間帯には、学年を問わず多くの小学生が自転車に乗って周辺を通行していた。観察中、危険な場面はなかったものの、アイスクリームや携帯電話を持って片手運転しながら、交差点を通過する小学生が見られた。

観察の結果、一時停止のある交差点を通過した小学生は計75名。このうち、一時停止を行なったのは9名(12%)、一時停止を行なわずにそのまま通過してしま

ったのが66名(88%)だった。別表のように一時停止と同時に左右確認をおこなった小学生が8名、一時停止した小学生は1名(単独)で走行している場合に多く見られた。複数で走行中は前方の自転車が一時的に止まると、後ろを走る自転車はそのまま付いていくという姿が目立った。特に、親の後ろを走る小学生は、前方の親が一時停止をしないと、左右確認もせずに親を追いかけて交差点に進入するケースがほとんどだった。

一方で、徒歩の母親と自転車に乗る低学年の小学生の親子連れは、母親が子どもを一時停止で停止させて、声をかけて左右の確認を行なわせていた。また、横断歩道を渡る歩行者を優先させるために、一時停止してから交差点を通行した小学生の例も観察された。

自転車に乗る小学生の交差点一時停止状況

一時停止をした		一時停止をしなかった				合計		
左右確認あり		左右確認なし		左右確認あり			左右確認なし	
男子	女子	男子	女子	男子	女子		男子	女子
1	7	1	0	4	3	30	29	75
9				66				

小学生(6~12歳)の判断は観察者の見解による



横断歩道を渡る歩行者の前を横切る小学生の自転車

PROPOSE

交通ルールを教えるべき大人がまず一時停止を

自転車は交差点で一時停止する必要がある。子どもに自転車乗車時のルールを最初に教えるのは親ではないだろうか。今回の観察では、子どもの手本とならなくてはならない親やまわりで自転車に乗る大人が率先して交通ルールを守らない傾向が見られた。子どもといっしょに自転車に乗る時は、「一時停止」の大切さを自ら手本を示して教えてほしい。自転車を乗車する時には危険な側面があることを子どもに理解させる必要がある。

また、ドライバーは、子どもが交通ルールを十分に理解せずに自転車に乗っていることを認識して、子どもの自転車の安全を確保しなければならない。

SJ Mail

ご愛読者の皆様へ
今月号に対するご意見・ご感想をお寄せください!!

SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただくため、日頃よりご愛読いただいている読者のみなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。今月号へのご意見・ご感想は右記のメールアドレスへ。 sj-mail@ast-creative.co.jp
弊誌に対するご要望や個別のご質問には回答できかねる場合がございます。あらかじめご了承ください。